

ベラルーシ公開情報とりまとめ

(1月15日～1月21日)

2024年2月1日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- 2023年に政治的理由で有罪判決を受けた人数は1,603人(1月15日)
- 2023年の工業生産額は前年比7.7%増(1月16日)
- 2023年の国内総生産(GDP)成長率は前年比3.9%(1月17日)
- アレインク外務大臣の非同盟運動サミットへの出席(於:ウガンダ、1月19日、20日)

【ルカシェンコ大統領動静】

●ベラルーシの主権に関する発言

ルカシェンコ大統領は、メディアで「ベラルーシはロシアとの関係において主権を喪失しつつある」と報じられていることについて、以下のようにコメント。

・我々は何も失っていない。我々国民のものであるこの主権ある領土で、我々だけが決定を下し、我々に有利な条件でのみ行動していることは明白である。

・ベラルーシとロシアは、主権ある、独立した国家。システムは共通で似ているが、主権を持つ2つの国家であるべきである。

(1月18日 大統領府)

対する尽力に貢献できる。

(2)サミットの枠組みで、シュクリ・エジプト外務大臣、アラミン・マレーシア外務副大臣、モハンマド・ハサン・マームード・バングラデシュ外務大臣、マカモ・モザンビーク外務大臣、オスマン・エリトリア外務大臣、シメオン・オヨノ・エソノ・アンゲ赤道ギニア外務・国際協力・ディアスポラ大臣、シャワ・ジンバブエ外務・国際貿易大臣、ルトノ・インドネシア外務大臣、キム・ソンギョン北朝鮮外務次官、ツビヤノヴィチ・ボスニア・ヘルツェゴビナ大統領評議会議員とそれぞれ会談。

(1月19日、20日 外務省)

【外交】

●アレインク外務大臣の非同盟運動サミットへの出席(於:ウガンダ)

(1)アレインク外務大臣は、以下の旨演説。

・政治的な理由で各国を差別する根強い傾向や、一部の自称民主主義国による他の主権国家の内政への干渉は、国際平和と安全、人権、開発のための多国間メカニズムに悪影響を及ぼしている。国際貿易に対する既存の様々な障壁、特に一方的な強制措置は、世界経済の不確実性につながり、経済成長と持続可能な開発を危うくしている。

・非同盟運動は、加盟国間の妥協点を見つけ、集団的西側を含む他の国々との対話を強化し、橋を架けることができなければならない。我々は政治的な相違を克服しなければならない。

・ベラルーシはカリ肥料、IT分野、産業における先端技術や都市計画、農業を誇っており、飢餓の根絶に

●ベラルーシ・カタール外務省間協議

・ベラルーシ側からはシェスタコフ外務次官が出席。

・今後の二国間の行事の予定について協議し、首脳レベル及びハイレベルでの訪問による交流への関心を強調。

(1月21日 外務省)

●各国の在留ベラルーシ人に対する措置

(1)ラトビア内務省は在留ベラルーシ人を保護するための措置をとることで合意

・ラトビアのベラルーシ民主勢力事務所と内務省代表者らの会談の結果によるもの。

・ラトビア内務省は、ラトビアの居住許可証を有し、旅券の期限が半年以上残っているベラルーシ人に対して保護をすることを決定。

・旅券の期限が切れている場合は、難民認定の申請を行う必要がある。該当するベラルーシ人は、Telegram やメールを通じて民主勢力事務所に連絡を

とすることで、個別に対応が審議されることとなる。

(2)チェコはベラルーシの卒業証明書にアポストイーユを添付する義務を取りやめ

・同措置は、チェコで活動するベラルーシ民主勢力の要請を踏まえたもので、長期滞在査証と居住許可証もしくは滞在許可証を有するベラルーシ人が対象。

・現在、ベラルーシの在外公館は、公文書にアポストイーユを発行する権利を有しておらず、ベラルーシの卒業証明書は世界のほとんどの国で無効となっている。アポストイーユの発行はベラルーシ国内でのみ可能。

(1月15日 チハノフスカヤ氏 Telegram、18日「ゼルカロ(鏡)」)

●スロバキア文化省が、ベラルーシ及びロシアとの学術・文化協力の禁止令を取消し

・同省は、同措置について、「世界では何十もの軍事衝突が起こっており、我々の考えでは、芸術家や文化がその代償を払うべきではない」と説明。

・同国は2022年3月以降、ベラルーシ及びロシアとの学術的・文化的な連携を禁止していた。

(1月20日「ゼルカロ(鏡)」)

【内政】

●1月19日現在の政治犯の数は1,408人

(1月19日 人権団体「ヴァスナ(春)」)

【軍事・安全保障】

●ベラルーシから欧州への不法越境の試み

(1月15日～1月16日)

・リトアニア国境警備局は少なくとも4人を阻止。

・ラトビア国境では不法越境は確認されず。

・ポーランド国境警備隊は少なくとも10人を阻止。

(1月16日～1月17日 Pozirk)

【治安・犯罪】

●コストゥセフ「ベラルーシ国民戦線」党首が刑務所に収監へ

・同党は、2023年8月に最高裁判所によって廃止された。

・同氏は2021年4月から拘束されており、親族によれば、2023年6月から7月にかけて、4回以上10日間にわたって懲罰用隔離房に収監された。

・親族によれば、同氏の拘束状況の変更については、オンラインで「裁判」がなされ、同氏を刑務所に収監することが確定。どの刑務所にいつ収監されるかは不明。

(1月16日 人権団体「ヴァスナ(春)」、Pozirk)

【経済】

●2023年の工業生産額は前年比7.7%増

・2023年の工業生産額は1,872億6,680万ルーブル(約624億2,226万ドル相当、前年比107.7%)を記録。

・各分野での工業生産額は前年比以下のとおり。

鉱業	104.5%
製造業	109.1%
電力、ガス、蒸気、温水及び空調用空気の供給	99.1%
水の供給、廃棄物の収集及び処理、汚染の除去に関する活動	101.7%

(1月16日 国家統計委員会)

●2023年の国内総生産(GDP)成長率は前年比3.9%

・2023年のGDPは2,161億ベラルーシ・ルーブル(前年比103.9%)

・GDPデフレーター指数は前年比107.3%

・2023年のGDP成長率は、当局が予測していた前年比3.8%を上回った。

(1月17日 国家統計委員会)

●ベラルーシに入国する外国の大型トラックに対し、ベラルーシの大型トラックへの貨物の積替えを有料に

・2022年以降、EUによる制裁への対抗措置として、欧州の大型トラックは、ベラルーシ国境を通過後、指定されたエリアでベラルーシの大型トラックに貨物を積替えることとなった。

・今次措置では、同エリアでの貨物の積替えに際し、3基本単位(120ルーブル=約40米ドル相当)が課された。

(1月16日 法律ポータル、18日「ゼルカロ(鏡)」)

●医師及び看護師の不足

・1月16日現在、ベラルーシ国内では専門医 4,755 人及び看護師 3,862 人が不足している。

・原因としては、給与が国の平均よりも低いこと、国外での勤務、医療関係者の拘束等が挙げられる。

(1月16日「ゼルカロ(鏡)」)

【抗議勢力の動き】

●チハノフスカヤ民主勢力代表の動向

(1)世界経済フォーラムへの出席(1月～19日於:ダボス)

・欧州の集団安全保障に関する討論、言論の自由に関する討論でベラルーシの政治犯の状況等につき演説。また、2月に予定されている議会選挙を「茶番」であるとして、人々に対し、理由もなく自由をなくし、命を落とすことのないよういかなる抗議活動も行わないよう求め、選挙を無視するよう呼びかけ。

(2)カリノフスキー蜂起記念日のイベントの開催(1月21日)

・ナウセダ・リトアニア大統領、ドゥダ・ポーランド大統領とともに、蜂起の参加者らを追悼。

(1月22日 チハノフスカヤ氏公式サイト)

【統計等】

●2023年に政治的理由で有罪判決を受けた人数は1,603人(うち、男性 73%、女性 27%)

(1月15日 人権団体「ヴァスナ(春)」)

(了)